

(1)

1. 本書は、本工事の給配仕掛書であり、本工事に適用する特記事項は下記による。

1) 特記事項の適用は、項目の番号に○印のついたものとする。

2) 但し、給配事項で材料類別、工法等を選択指示するもの適用は下記による。

- 印のついたものを適用する。
- 印のない場合は、兼印のついたものを適用する。
- 印と兼印のある場合は、共に適用する。

3. 共通仕様書に記載されていない事項は日本建築学会建築工事標準仕様書・同解説 最新版（以下「JASS」と略称）による。

1) 竣工図 ・ 各階伏図 ・ 軸組図 ・ 各断面リスト
2) 施工図 ・ 鉄骨工作図

適用箇所	種類	配筋基準強度 (N/mm ²)	スラップ (cm)	備考
構造躯体	基礎	普通・軽量1.2	18・ 21 ・24・27・30	18・21 上根値とする
	階柱壁～階梁スラブ	普通・軽量1.2	18・21・24・27・30	18・21 上根値とする
	階柱壁～階梁スラブ	普通・軽量1.2	18・21・24・27・30	18・21 上根値とする
	階柱壁～階梁スラブ	普通・軽量1.2	18・21・24・27・30	18・21 上根値とする
	階柱壁～階梁スラブ	普通・軽量1.2	18・21・24・27・30	18・21 上根値とする
デッキ上コン	デッキ上コン	普通・軽量1.2	18・21・24	18・21 上根値とする
土間コンクリート	土間コンクリート 犬走り	普通・軽量1.2	18・ 21 ・24	18・21 上根値とする
捨コンクリート	捨コンクリート	普通・軽量1.2	15・ 18 ・21	18・ 21 上根値とする
ラブルコンクリート	ラブルコンクリート	普通・軽量1.2	18・18・21	18・21 上根値とする
杭コンクリート	流置打ち杭	普通・軽量1.2	15・18・21・24	18・21 上根値とする

径	材 質			接 手		備 考
	S0295A	S0345	S0390	圧接	重ね	
010, 013	○				○	
016	○				○	
019		○		○		
022		○		○		
025						
029						
高強度せん断補強筋	H ウルボン鋼					
	FR リバーボン					
	UHUFフープ					
	S テーフープ・ストロングフープ					
	SMフープ					

適用箇所	材 質	備 考
大梁	CS400・SH400A・SH400B・SH400C	
小梁	CS400・SH400A・SH400A・SH400A	
パネルソーティングフレーム	SH400C (SH400C)	
柱 (H型鋼)	SS400・SH400A・SH400B・SH400C	
柱角パイプ	BCP235B (SH400B)・BCP235B (SH400B)・BCP325B (SH400C)	
	熱間	SH400B・SH400B
柱角パイプ	SHK400 SHK400	
隅柱	CS400 SHK400	
ベースプレート	CS400 SH400C・SH400C 厚板品ベースプレート (センター固定品) ベースバック、ハイベース、NOベース、Uボルト	

技 術 範 囲	発 給 機 関	納 入 品 目	塗 回 数		種 別
			工場	現場	
	標準仕様書による	JISK5523・JISK5524	1		A・B・C

範 囲	並船メッキの種類・記号	前 処 理 工 程
	JISB6212種 HZ12, 15, 21	凍ショットプラスト 耐摩フラックス加工
	JISB6212種 HZ12, 15, 21	凍ショットプラスト 耐摩フラックス加工

継手形式	大 梁 継 手		小 梁 継 手	柱 継 手	
	フランジ	ウェブ	ウェブ	フランジ	ウェブ
高力ボルト接合	○	○	○		
溶接接合					

抗 征	抗 耐 力	備 考

杭 徑	位 置	杭 長	杭 徑	備 考
	上 杭		$A \cdot B \cdot C$	
	中 杭		$A \cdot B \cdot C$	
	下 杭		$A \cdot B \cdot C$	
	上 杭		$A \cdot B \cdot C$	
	中 杭		$A \cdot B \cdot C$	
	下 杭		$A \cdot B \cdot C$	
	上 杭		$A \cdot B \cdot C$	
	中 杭		$A \cdot B \cdot C$	
	下 杭		$A \cdot B \cdot C$	

杭工法	耐力の確認
セメントミルク工法 規定工法 摩擦杭	<ul style="list-style-type: none"> ・載荷試験 ・アンメーターによる支持層確認 ・最終打撃による耐力算定 ・係員立合いによる支持層確認（目視） ・試験掘による支持層確認（目視）
現場打杭	<ul style="list-style-type: none"> ・係員立合いによる支持層確認（目視） ・試験掘による支持層確認（目視）

- ・埋め戻し土 ① 良質な山土(密土)
- ・埋め戻し工法 ② 3段埋め戻し工法 (30cm毎に転圧の事)
- ③セメント安全処理埋め戻し工法
セメント ジオセツト10 混入の上転圧の事 (100kg/m²)

構造特記仕様書 (2)

4. 鉄筋コンクリート工事

(4-1) コンクリート

1. 水中、水中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当たる場合は、割合、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、保員の承認を得る事。
2. 築造体コンクリート現場の圧縮強度試験供試体（JASS5T-603）は、現場水中養生、または、現場制かん養生とし、採取は打ち込み工区ごと、打ち込み日ごととする。
- また、打ち込み量が150m³をこえる場合は150m³ごとまたは、その確数ごとに一回を標準とする。
- 一回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた3台の運搬車からその必要本数を採取する。なお、供試体の数量は特別指示なき場合は、1回当たり6本以上とし、そのうち4運用に3本を用いる。
3. ポンプ打ちコンクリートは、打ち込み位置に出来るだけ近づけて直に打ちコンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送終結時とは同等以上の投粒を有する者が従事すること。なお、打ち込み継ぎ目における打ち粒が時間間隔の湿度については、外気温が25度未満の場合は150分、25度以上の場合は120分以内とする。

4. 調合性能は下記のごとくとし、調合表を提出の上係員の承認を得る事。

※普通ポルトランドセメント

水セメント比 ※65%以下 ・ %以下

單位水量 1.8 kg/m³以下 N/m³以下単位 セメント量 $\geq 2.65 \text{ kg/m}^3$ 以上、 N/m^3 以上

混合材料 1. AE 脱水剂

二、酸性磷酸水剂

~~SECRET~~

157, 172

~~SECRET~~

~~「お世話をやてゐる」~~

~~王地龍曰：「人不木之混入之止然。」~~

(4-2) 鉄筋

1. 鉄筋は JIS G3112 の規格品を標準とする。
2. 鉄筋の加工及び組立は、「鉄筋コンクリート構造配筋基準」による。
3. 柱の筋筋は、下記のごとくとする。
 - H 形（タガ形）
 - ・ W 形（溶接形）
 - ・ S 形（スパイラル形）

5. 鉄骨工事

2. 鉄骨の加工及び組立は、下記工場にて行う。

全機連認定		
Hグレード工場	○	
Mグレード工場	○	
Rグレード工場	○	
Jグレード工場		

2. 溶接継目強度 母材と同程度の溶接股割をして

難 ある

☐ ない

3. 下記の検査を受ける事。

- ・施工図検査
- ・材料検査
- ・現寸検査（隅寸図は、床書きとする）
- ・仮組検査
- ・超音波探傷検査（鋼 第三者にて 30 96、鋼 社内にて 100 96）
（第三者は JIS認定業者とする）

- ・製品検査
- ・柱脚部の検査（現場施工時）（既定工法は既定書による）
- ・高力ボルト接合部の検査（現場施工時）

4. ミルシート、超音波探傷試験結果、建て方終了時の全景写真を提出の事。

5. 高力ボルトの摩損面の処理は黒皮などを直径外径の2倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した赤さび状態ですべり係数が0.45以上確保できるものを標準とし、目視により検査を行う。

- ⑧. 高力ボルトの締め付けに使用する機器はよく調整されたものを使用し、締め付けの順序は図材が十分に密着するように注意して行う。また、締め付けは原則として2段階とする。
- トルシア形高力ボルトの2次締めは、トルシア形高力ボルト専用レンチで行い、チップの破断で締め付け終了を確認する。

7. 締め付け後の検査は、各締め付け工法別に適切な締め付けが行なわれているか検査する。
トルシア形高力ボルトは、マーキングによって、1次締めなされたことを確認し、ボルト頭のチップ破断によ
って、2次締めを確認する。

6. 主な試験 検査 (構造関係)

種 類	採 用	項 目	備 考
		平板載荷試験	
地 盤		杭の載荷試験	
		試験杭	力所
		杭打設時のアンメーターにより支持地盤確認	
	○	埋め戻し時、8段締め工法の係員の立合い 転圧機使用の確認	
	○	埋め戻し時、セメント安全処理の係員の立合い	
コン ク リ ー ト		ためし盛り試験	
		荷おろし地点における品質検査（単位 容積 重量）	軽量コンクリート使用の時
		打込み直前における品質検査	
	○	（スランプ、空気量、湿度、塩化物検査、単位容積重量 強度測定のためサンプル及び圧縮強度）	
鉄 筋	○	材料試験	ミルシートにて可
	○	ガス圧接工数量確認試験	認定書等しにて可
		ガス圧接部引張試験	
	○	ガス圧接部超音波探傷検査	
鉄 骨	○	材料試験	ミルシートにて可
	○	工場溶接工数量確認試験	認定書等しにて可
	○	高力ボルトのすべり保力試験	
		工場溶接部の超音波探傷試験	第三者 〇〇 認定業者
		工事現場溶接工数量確認試験	認定書等しにて可
		工事現場溶接部の超音波探傷試験	第三者 〇〇 認定業者 往來突合せ部分のみ

注 超音波探傷試験は元請業者の発注とする。

鉄筋コンクリート構造配筋標準図

1. 鉄筋加工、かぶり

(1) 鉄筋の折り曲げ (末端部)

折曲げ 角度	折曲げ図	SD295A, SD295B SD345 SDR295, SDR345			使用箇所
		D16 以下	D19 ~D38	D19 ~D38	
180°		3d以上	4d以上	5d以上	柱、梁の主筋 杭基礎のベース筋 D16以上の鉄筋
135°		3d以上	4d以上	5d以上	あばら筋、帯筋 スパイラル筋 D13以下の鉄筋
90°		3d以上	4d以上	5d以上	T形及びL形の梁の あばら筋
135° 及び 90°		3d以上	4d以上	5d以上	幅止め筋

(2) 鉄筋の折り曲げ (中間部)

折曲げ 角度	折曲げ図	SD295A, SD295B SD345, SD390 SDR295, SDR345			使用箇所
		D16 以下	D19 ~D25	D29 ~D38	
90°以下		3d以上	4d以上	—	あばら筋、帯筋 スパイラル筋
90°以下		4d以上	6d以上	8d以上	その他の鉄筋

(注) SD390は、使用箇所が、その他の鉄筋の場合に適用する。

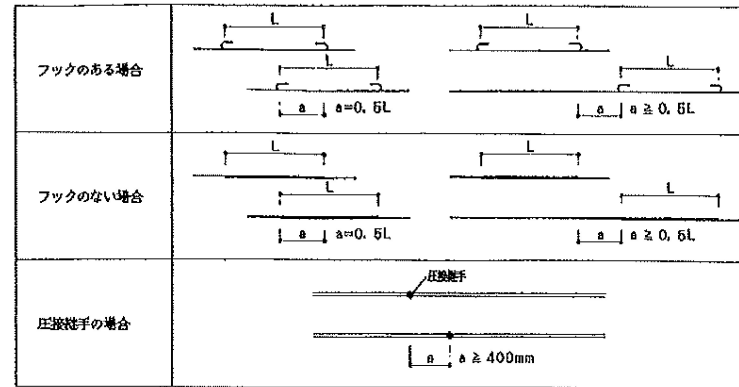
- (1) 表、(2) 表とも 1. 0は、曲げ内法直径を示す。
2. dは、呼び名に用いた数値を示す。

(3) 鉄筋の継手及び定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの 設計基準強度 (F _o) (N/mm ²)	フックなし				フックあり			
		L1	L2	L3	L3	L1	L2	L3	L3
SD295A SD295B SD345 SDR295 SDR345	21 以上~27 未満	40d	35d	—	10d かつ 150mm 以上	30d	25d	—	15d
SD295A SD295B SD345 SDR295 SDR345	27 以上~36 以下	35d	30d	—	10d かつ 150mm 以上	25d	20d	—	15d
SD390	21 以上~27 未満	45d	40d	—	10d かつ 150mm 以上	35d	30d	—	15d
SD390	27 以上~36 以下	40d	35d	—	10d かつ 150mm 以上	30d	25d	—	15d

- (注) 1. L1: 継手並びに2. 及び3. 以外の定着長さ
2. L2: 制振効果のおそれない箇所への定着長さ
3. L3: 小梁及びスラブの下底筋の定着長さ。ただし基礎固定スラブ、及びこれを受ける小梁を除く
4. フックのある場合のL1, L2及びL3は、フック部分を含まない。

(4) 隣り合う継手の位置

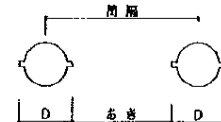


(5) 鉄筋の最小かぶり厚さ

構造部分の種類	最小かぶり厚さ (mm)	
	仕上げあり	仕上げなし
スラブ、耐力壁 以外の壁	20	30
土に接しない 部分	屋内	仕上げあり 30 仕上げなし 30
	屋外	仕上げあり 30 仕上げなし 40
	擁壁、固定スラブ	40
	柱、梁、スラブ、壁	*40
土に接する 部分	基礎、擁壁、固定スラブ	*60
煙突等高温を受ける部分	60	

- (注) 1. *印のかぶり厚さは、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は特記による。
2. 「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、仕上塗材、吹付けまたは、塗装等の鉄筋の
耐久性上有効でないものを除く。
3. スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨てコンクリートの厚さは含まない。
4. 杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭先端からとする。
5. 埋置を受けるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所は、特記による。
6. 柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに10mmを加えた数値を標準とする。

(6) 鉄筋のあき



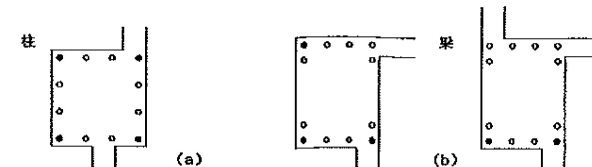
鉄筋相互のあきは、次のうち最大のものを以上とする。ただし、特殊な鉄筋継手の場合は、特記による。

- (1) 粗骨材の最大寸法の1.25倍
(2) 25mm
(3) 鉄筋の径 (呼び名に用いた数値d) の1.5倍

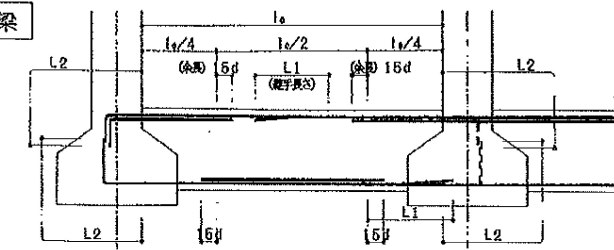
(7) 鉄筋のフック

異形鉄筋の末端部には、以下に示す場合にフックをつける。

- (1) 柱の隅隅にある主筋で、重ね継手の場合及び梁上端の柱頭にある場合。(下図aの●印で示す鉄筋)
(2) 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の隅隅にある場合(下図bの●印で示す鉄筋)。ただし、基礎梁を除く。
(3) 煙突の鉄筋 (壁の一部となる場合を含む)
(4) 杭基礎のベース筋
(5) 帯筋、あばら筋及び幅止め筋



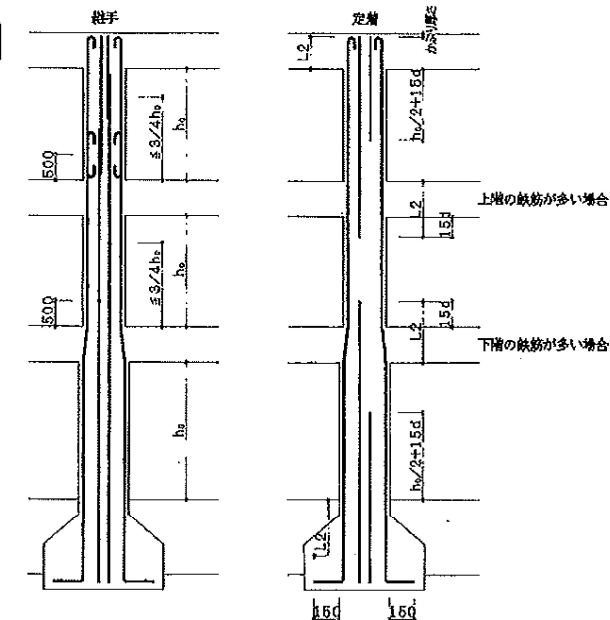
2. 基礎梁



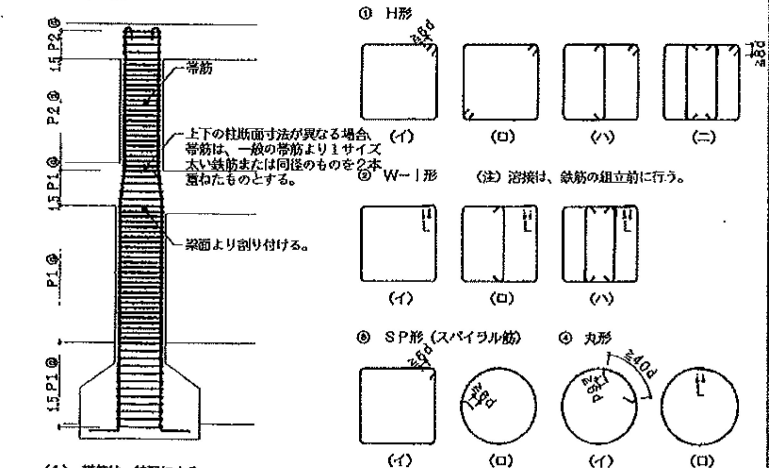
- (注) 1. 波線は、柱内定着の場合を示す。
2. 独立基礎、連続基礎、べた基礎とも継手長さ、余長は上図による。ただし、配筋は基礎リストによる。

3. 柱

(1) 柱の主筋



(2) 帯筋

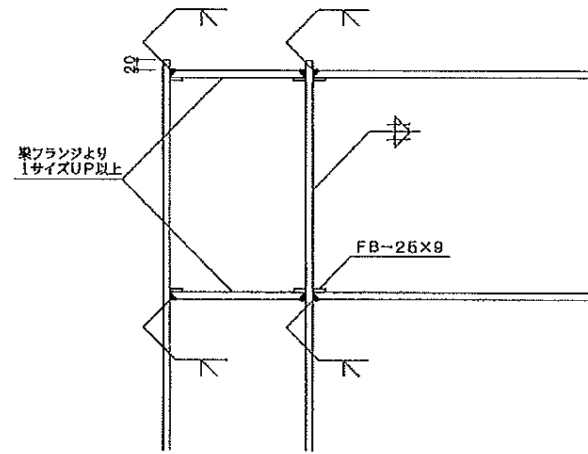


- (1) 帯筋は、特記による。
(2) 帯筋組立の形は、上図とし、適用は特記による。特記がなければ次による。
(a) H形とする。
(b) H形の135°曲げフックが困難な場合は、W-1形とする事ができる。
(c) 溶接する場合の溶接長さとは、両面フレア溶接の場合は5d以上、片面フレア溶接の場合は10d以上とする。
(3) フック及び継手の位置は、交互とする。
(4) SP形において、柱頭及び柱脚の端部は、1.5倍以上の溶接長を行う。

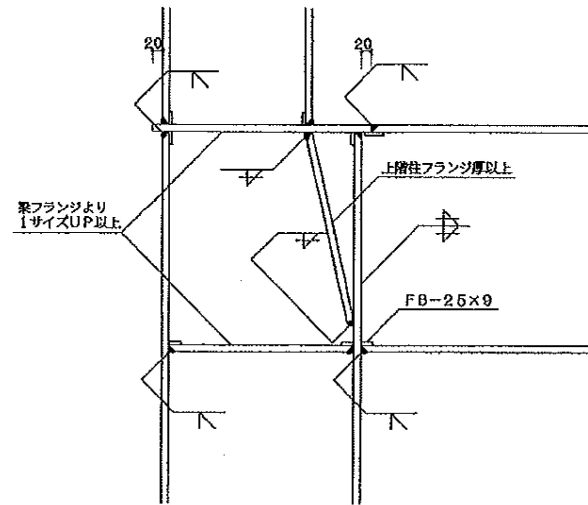
鉄骨構造標準図(1)

1. 柱梁接合部

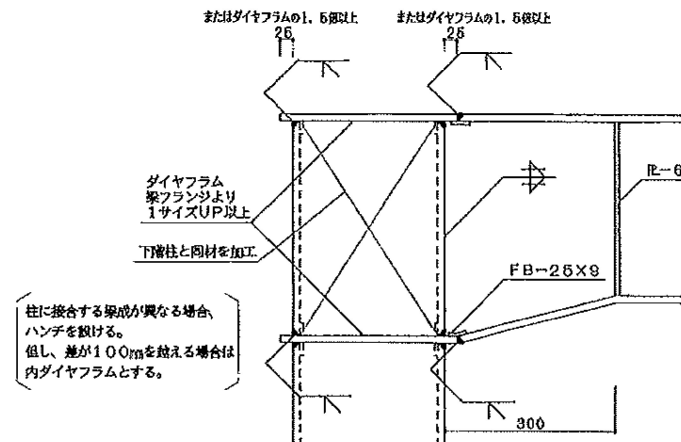
(1) H鋼柱 最上階接合部



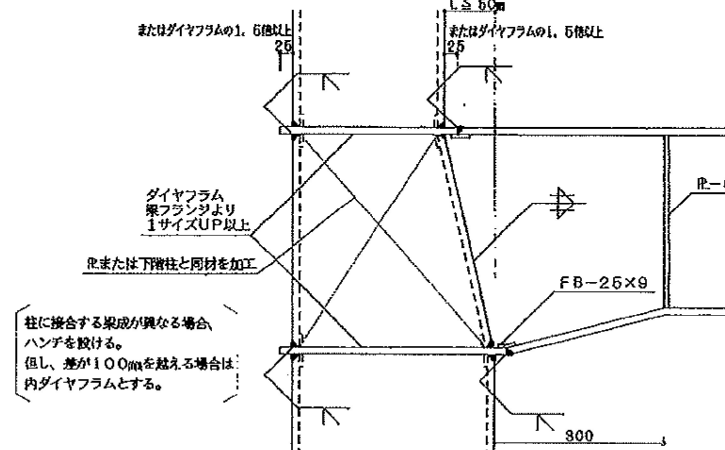
(2) H鋼柱 一般階接合部



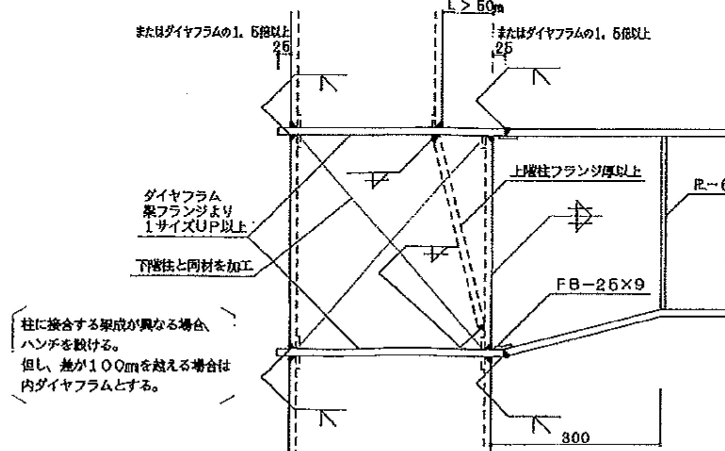
(3) 角型鋼管柱 最上階接合部



(4) 角型鋼管柱 一般階接合部 (柱 絞る 部材差が50以下の時)



(5) 角型鋼管柱 一般階接合部 (柱 絞らない 部材差が50を超える場合)



2. 溶接接合の形状

継手 記号	開先形状	寸法及びサイズ			
		板厚 t	開先寸法	アーーク平溶接	ガスシールド半自動溶接
配管 記号		$t \geq 6$	G R r	6 2 45°	6 2 45°
		$t \geq 12$	G R r	9 2 35°	$t \geq 16$ 6 2 35°
突合せ 継手 記号		$t = 6 \sim 20$	G R r	0 2 45°	0 3 55°
		$t \geq 6$	G	$t/2$	$t/3$
T 継手 記号		$t \geq 6$	G R r	0 2 60°	0 2~3 60°
		$t \geq 12$	G R r	9 2 35°	$t \geq 16$ 6 2 35°
角 継手 記号		$t \geq 6$	G R r	6 2 45°	6 2 45°
		$t \geq 12$	G R r	9 2 35°	$t \geq 16$ 6 2 35°

すみ肉溶接						補強すみ肉		柱現場溶接	
						$10 \geq h \geq 1/4$			
t1	6	9	12	16	19				
s	6	8	10	13	16				
a	1, 6	1, 8	2, 0	2, 3	2, 5				
裏当筋						エンドタブ		スカラップ	
								$H \leq 450 \quad r=36$ $H > 450 \quad r=40$	
$t > 16 \quad a \geq 6$						36 又は $2t$ 以上			

溶接記号	溶接形状	溶接方法	溶接場所
II	I. 形	プラグ溶接	○ (チッピング) G (研磨) M (切削)
VI	V. X. 形	ビードまたは、肉盛り	現場溶接
UI	U. H. 形	点溶接	全周溶接
VK	V. K. 形	プロジェクション溶接	現場全周溶接
J	J. 形	シーム溶接	
ス	すみ肉溶接	フラッシュ、アッパセット溶接	

鉄骨構造標準図(2)

3. 高力ボルト

締め付け長さに加える長さは、下表による。

ボルトの呼び径	締め付け長さに加える長さ (mm)	
	JISの高力ボルト	トルシア高力ボルト
M12	25	-
M16	30	25
M20	35	30
M22	40	35
M24	45	40

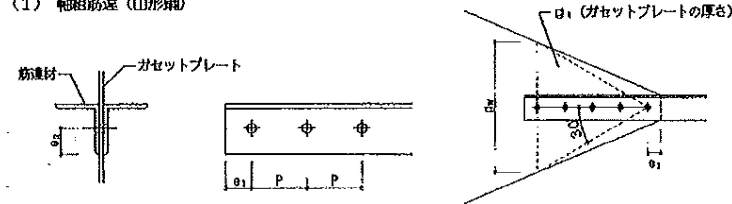
ボルト孔の径は、ボルトの呼び径に下表の値を加えたものとする。

ボルトの呼び径	ボルトの呼び径に加える長さ (mm)	※ () 内は、普通ボルトの場合とする。ただし、もや、形線類の取付用ボルトの場合は1.0mmとすることができる。
M12, M16	2.0 (0.5)	
M20~M24	2.0 (0.5)	

4. 接合標準

大梁、小梁の接手は「梁端接合部標準図1~3」による。

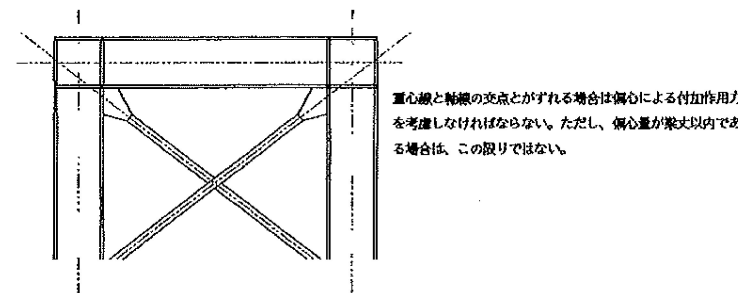
(1) 軸組筋造 (山形鋼)



サイズ (mm)	筋造材					ガセットプレート	
	高力ボルト	F以上 (mm)	e1以上 (mm)	e2以上 (mm)	d以上 (mm)	g ₁	g ₂
L-75×75×9	5-M16	40	30	40	17.0	185	9
2L _a -75×75×9	5-M20	50	35	35	21.5	230	12
L-90×90×7	5-M20	50	35	52	21.5	230	9
2L _a -90×90×7	5-M20	50	35	52	21.5	230	12
L-90×90×10	5-M20	50	35	49	21.5	230	9
2L _a -90×90×10	5-M22	55	40	47	23.5	255	16
L-100×100×7	5-M20	50	35	62	21.5	230	12
2L _a -100×100×7	5-M20	50	35	62	21.5	230	12
L-100×100×10	5-M22	55	40	57	23.5	255	9
2L _a -100×100×10	5-M22	55	40	57	23.5	255	16

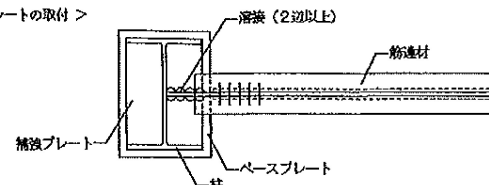
(注) L: 1面摩擦接合 2L_a: 2面摩擦接合

< 軸組の交点が梁内にある場合 >

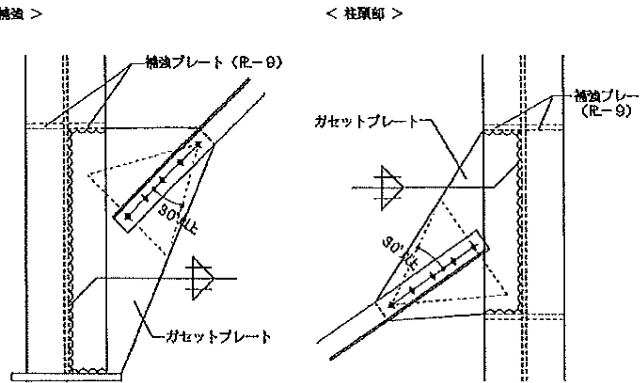


重心線と軸組の交点がずれる場合は偏心による付加作用力を考慮しなければならない。ただし、偏心量が梁寸以内である場合は、この限りではない。

< ガセットプレートの取付 >



< 柱脚部補強 >



(2) その他の形鋼のゲージ

A or B	B		最大軸径	B		最大軸径	B		最大軸径
	g ₁	g ₂		g ₁	g ₂		g ₁	g ₂	
**50	30	16	**100	60	16	**50	30	16	
60	35	16	125	75	16	65	35	20	
65	35	20	150	90	22	70	40	20	
70	40	20	175	105	22	75	40	22	
75	40	22	200	120	24	80	45	22	
80	45	22	250	150	24	90	50	24	
90	50	24	*300	180	40	24	100	55	24
100	55	24	350	140	70	24			
125	50	35	24	400	140	90	24		
130	50	40	24						
150	55	55	24						
175	60	70	24						
200	60	90	24						

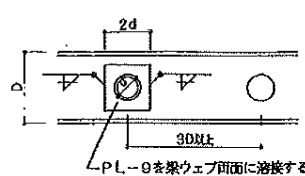
* B=300は千鳥打ちとする。

**印の欄のg及び最大軸径の値は強度上支障がないとき最小軸径距離の設定にかかわらず用いることができる。

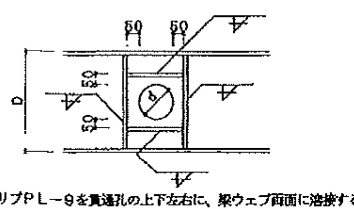
5. 梁貫通補強

梁貫通補強は、下図を参考とし、係員の指示により施工する。
貫通孔は、ジョイント内 (ジョイントと柱の間) には設けない。
貫通孔 d ≤ 0.4D とする。
間隔貫通孔間隔は3D以上とする。

(1) d ≤ 100 の場合

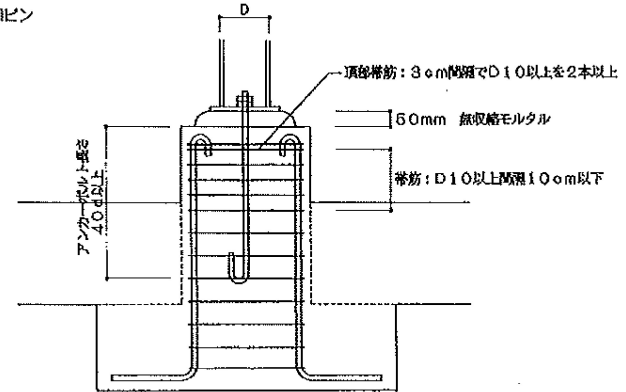


(2) d > 100 の場合



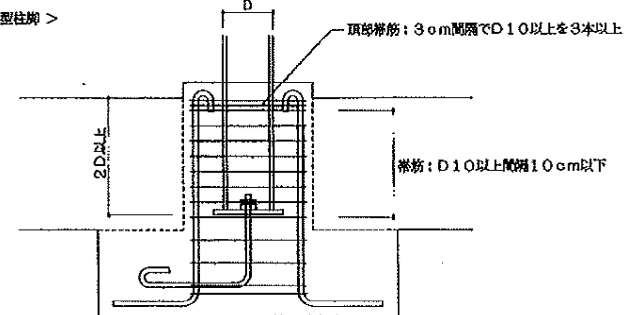
6. 柱脚

(1) 柱脚ピン



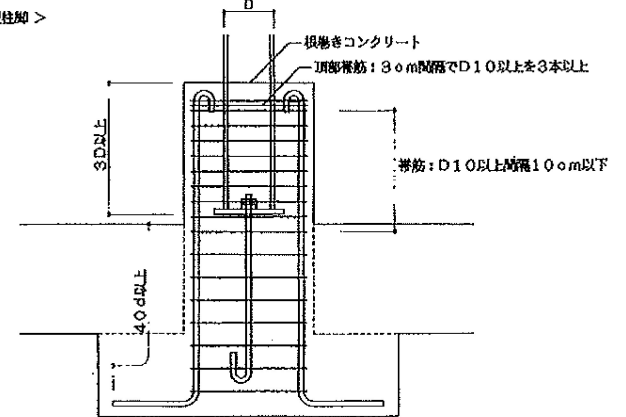
(2) 柱脚を固定とする場合

< 埋め込み型柱脚 >



嵌め込み部の鉄筋コンクリート部分の厚さは150mm以上とする。(筋造材の場合は指針に示す式によって求める数値以上とする。)

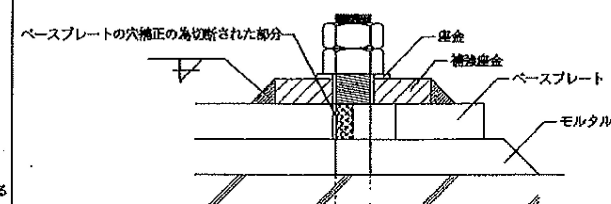
< 埋込み型柱脚 >

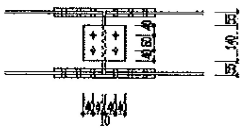
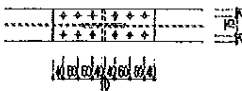


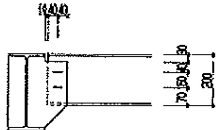
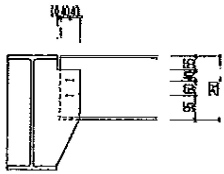
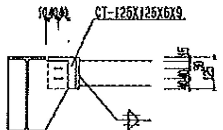



埋込み部分のコンクリートの厚さは、150mm以上とし鉄筋の納まりを検討決定する。

(3) アンカーボルト孔の補強

アンカーボルトの施工に損傷がある場合、下図のように補強する。



梁現場接合部標準図 No. 1 (SS400, SN400)					
継手番号	J 2				
SIZE	H-250×125×6×9				
継手詳細					
					
	フランジ	24-M16:L=55	2P-9×119×410 4P-9×44×410		
	ウェブ	4-M16:L=45	2P-6×140×170		

梁現場接合部標準図 No. 2 (SS400, SN400)							
継手番号	JP 4		JP 5	JP 16			
SIZE	H-200×100×5.5×8		H-250×125×6×9	□-100×100×3.2			
継手詳細							
							
ボルト 添板	フランジ						
	ウェブ	トルシア型 H.T.B M16×45	2本	トルシア型 H.T.B M16×45	2本	トルシア型 H.T.B M16×45	2本
	フランジ	外					
	ウェブ	内	PL-9	1枚	PL-9	1枚	PL-9, CI-125×125×6×9